

k y
平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 宮城県気仙沼市立条南中学校
種 別 ☐ 保育園・幼稚園 ☐ 小学校 ☐ 小中一貫※注1
☒ 中学校 ☐ 中高一貫※注2 ☐ 高等学校
☐ 教員養成大学 ☐ 専修学校、各種学校
☐ 特別支援学校
☐ その他（例：小中高一貫）
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む
所在地 〒988-0053
宮城県気仙沼市田中前四丁目 8 番地
E-mail jounan-chu@kesennuma.ed.jp
Website
幼児児童生徒数 男子 94 名 女子 88 名 合計 182 名
幼児・児童・生徒の年齢 13 歳～ 15 歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要（800 字程度＋活動内容を表す写真数枚）

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

当校は、「未来の気仙沼を支える人になろう～環境、防災、共生を通して～」を活動テーマに、ESD を、地域を支える人材を育成する場と捉え、ESD の実践を通して、自ら課題を発見し探究する力（もとめる）や、積極的に人とふれ合う力（かかわる）、他者と協力する態度や力（はたす）の育成を目標とした。

具体的には、環境、生き方を考える、共生を柱に、①地域の環境と防災に係わる学習、②地域の人と関わり生き方を学ぶ学習、③共生に係わる学習を行った。

① 地域の環境と防災に係わる活動

1 学年では、東日本大震災によって悪化した身近な地域の環境を知り、震災時の避難の仕方や災害発生時に対応できる力を養うことをねらい、防災マップづくり、避難所設営訓練、救急救命講習、サバイバル飯づくりなどを行った。

防災マップづくりでは、地域の自主防災組織連絡協議会会長を講師に招いて通学路の危険箇所調査の視点を学び、学区内の防災マップづくりを行った。

② 人との関わりを通して生き方を考える学習

2 学年では、将来なりたい職業や関心のある職業について考え、気仙沼市役所をはじめ、市内の23事業所で2日間の職場体験学習を実施した。地域の人との交流を通して働くことや学ぶことへの関心を高めさせ、生き方についてじっくり考える力を養い、自己理解を深めさせた。

体験を通して学んだ職業観や生き方について立志式で発表した。地域社会に生きる実感を味わうことができ、また、改めて郷土の良さに気付くことができた。

③ 共生に係わる学習

3 学年では、地域の人々との関わりや協働的に活動することを通して、地域の一員として自分の役割や責任を果たす力を身に付けさせることをねらい、市営住宅の住民の方と交流学習を行った。

交流活動が始めるにあたり、認知症の福祉講話や視聴覚障害者の体験学習を行い、共に生きることの大切さについて学習した。

交流学習では、市営住宅の住民の方との炊き出し体験や、市営住宅近隣地域の危険箇所調査を一緒に行い、住民の方々と話し合いながら防災マップを作成した。



(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input checked="" type="checkbox"/> 17. その他(共生、生き方)		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

- ・「まち歩き防災マップのつくり方・ポイント」
（東北大学災害科学国際研究所地震津波リスク評価寄付研究部門助手
安部先生作成の資料）
- ・気仙沼市自主防災組織連絡協議会滝の入地区防災マップ

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

総合的な学習の時間に全学年で位置づけている。
地域を学習素材に、地域の環境を知る、地域の人々から学ぶ、地域の人との共生を学習課題に、系統性をもって生徒が学べるものにしている。
指導内容については、環境や社会状況の変化に応じて適切に定めている。
指導方法については、NPO法人、気仙沼栄養士会、自主防災連絡協議会など、学習内容に応じて外部機関と連携を図り、工夫改善に努めている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

継続して活動に取り組むため、NPO法人と連携を図っている。
校内の体制としては、各学年で学習した内容の掲示物を作成し、展示している。また、文化祭ではステージ発表を行い、学校全体で学びを共有できる環境の整備を図っている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

教育課程の内部評価や反省を行っており、その中の一つにユネスコスクールとしての活動についても話し合っている。
学校全体の学習テーマや内容、各学年における防災学習の内容をどのように位置づけて行うかなどが課題として挙げられた。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。（２００字程度） ※チェック事項 2-2 に対応

活動の成果について、学校便り、学年・学級通信、学校の広報誌を主として発信している。

また、３学年の交流活動が地元新聞社に記事として取り上げられたことで、生徒の活動に対する意欲が高まり、市営住宅の方との取組が活性化した。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など）（２００字程度）

※チェック事項 2-3 に対応

- ・ NPO 法人「SEA'S ASIA」（３年市営住宅交流活動）
- ・ NPO 法人ぽらん（３年認知症講話、視聴覚障害者・高齢者体験）
- ・ 南郷市営住宅（３年交流活動）
- ・ 気仙沼栄養士会（１年サバメシづくり）
- ・ 気仙沼消防署（１年救急救命講習）
- ・ 気仙沼市市自主防災連絡協議会（１年防災マップづくり）
- ・ 気仙沼市役所他、市内２３の事業所（２年職場体験学習）

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成（２００字程度）

※チェック事項 2-4 に対応

気仙沼市内のユネスコスクール加盟校と、計画、中間報告、実践報告や各テーマに沿った検討会など、年に３回の交流会を行われている。

各学校の実践を参考に、どのような外部機関があるのか情報を得たり、様々な機関や幼・小・中・高校など学区内での連携の仕方などを参考にしたりして、ネットワークの形成を少しずつ広げている。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

1 学年の防災学習で、身近なものを使って震災時に生かす学習を行い、サバイバル飯や簡易ランプなどの体験を通した活動を取り入れたことで、生徒の防災への意識を高めることができた。

3 学年で行った市営住宅の住民との交流では、コミュニケーション力を高め、地域の一員として社会に参画する態度や共に生きることの大切さを育むことができた。

（3）平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

今年度も「未来の気仙沼を支える人になろう～環境、防災、共生を通して～」を活動テーマに、ESDを、地域の将来を担う人材育成の場と捉え、ESDの実践を通して、自ら課題を発見し探究する力（もとめる）や、積極的に人とふれ合う力（かかわる）、他者と協力する態度や力（はたす）の育成を目標に活動していく。

具体的には、環境、生き方を考える、共生を柱に、①地域の環境と防災に係わる学習、②地域の人と関わり生き方を学ぶ学習、③共生に係わる学習を行うが、生徒の実態や地域環境の変化、今後求められる能力の育成を視点に入れながら、外部機関や地域と連携し取り組んでいく。